富士河口湖町立
教育センターだより
No. 3
平成３０年５月１０日　文責　渡辺冨美夫

教育センター研究員委嘱状交付式 第1回研究員会・富士山学習研究会

４月２５日（水），平成３０年度教育センター研究員委嘱状交付式が行われ，町内小中学校１１校から選出された研究員に，渡邊政孝教育長より委嘱状が交付されました。教育長から，「教育は時々刻々と変化し，学習指導要領改訂による外国語科の導入や道徳の教科化などもその１つである。現場でもその対応が大きな課題となっている。」という旨のお話がありました。また，教育センターの役割について話され，研究員を中心に連携した研究を進め，さらに「富士山学習」を充実したものにしてほしいというお話がありました。

第１回研究員会（富士山学習研究会）において，委員長の西浜小藤巻桂吾先生，副委員長の船津小古屋修宏先生，小立小深澤隆仁先生の３名を中心に活動していくことが決まりました。協議では，藤巻先生より昨年度の研究経過が，小河原センター所長より，今年度の方向性が提案され，確認されました。

○昨年度の成果（主なもの）

・河口小学校において，下山先生による新倉堀抜に関する研究授業が実施された。授業案・ワークシート・確認テストなどが整備され，コンパクトで質の高い授業ができるようになった。

・新倉堀抜の臨地研修は授業を進めていく上でとても参考になった。

・富士山科学研究所や富士山世界遺産センターとの連携による授業づくりが進んでいる。

・富士宮市の富士山教育の取組は学ぶものが多くあった。町の富士山学習にも参考になる。

○今年度の方向性

・昨年度取り組んだ新倉堀抜の授業をセンターの新プログラムと関連させながらより多くの学校で実施していく。新倉堀抜の体験プログラムを今年度からセンター事業の１つとした。

・富士山学習年間計画の実施と見直しをしていく。

・専門機関との連携による出前授業の実施を推進していく。（多くの学習プログラムがある）

・授業実践の共有化のため，各校にある授業案や授業資料をセンターに集約し，データベース化していく。

最後に，富士山科学研究所の三浦和朝先生と小俣欽司先生から学習プログラムの紹介があり，学校の希望に沿った授業や専門家による授業も実施できるので，活用してほしいとの話がありました。

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

＊研究テーマ　世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業づくり

＊研究活動の柱

①全校共通して行える授業の提案と公開授業の実施　②富士山学習年間計画の実施と見直し

③専門機関との連携による出前授業の実施　④研究員の研修の推進